

かなえるレター

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都



上京区 ジョナさま
「おぎゃわわわあ」

利用者さま

昔から漫画家を目指し、現在も美大に通い自分の絵の可能性を広げるため日々模索しながらやっています。

スタッフ

もの静かな芸術家風のジョナさまですが、表紙のようなギャグ漫画や、みんなをくすつと笑わせるような絵や動画(本人主演)を作ったりと、お茶目でとても楽しい方です。お忙しい中、表紙の事をお願いすると「忙しい方がいいので」と優しくおっしゃって下さったジョナさま。新しいことに挑戦していく姿に私も元気をもらっています! (作業療法士 那須)

かなえるリハビリ訪問看護ステーション (大阪)

ご利用者数	H27/10/19 時点		
介護保険	760 名	その他	8 名
医療保険	315 名	計	1083 名
		社員数	83 名

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都(京都)

ご利用者数	H27/10/19 時点		
介護保険	171 名	その他	4 名
医療保険	20 名	計	195 名
		社員数	16 名

ご利用者からの投稿募集

かなえるレターではご利用者の投稿を募集しています。俳句、川柳、随筆、絵手紙など作品の種類は問いません。あなたの作品をこの紙面で発表してみませんか? 詳細は郵送、FAX、メール、または訪問スタッフまで。

かなえるリハビリ
訪問看護ステーション都
〒604-8371
京都市中京区御池通
神泉苑西入神泉苑町 1-11
コマ・ビル3階
tel 075-803-0536
fax 075-803-0537
e-mail : info@kanaerulink.co.jp

<職種>

看護師	4 名
理学療法士	6 名
作業療法士	2 名
言語聴覚士	2 名
事務員	2 名

ご紹介▽

ジョナさま、20歳代、男性。先天性・進行性の障がいをかかえながら、自ら動かすことのできる右手で 現在も絵を描き続けておられます。幼い頃から絵を描くことが好きで、小学生から変わらない夢は“漫画家になる事”。高校時代から専門的に美術を学び、現在は市内の某芸術大学に通い漫画家を目指して日々奮闘中です。当事業所からは看護師・作業療法士・理学療法士が訪問させて頂いています。

芸術大学に通う・ジョナさまの日々

幼い頃から足や肩など体の大部分を動かすことが困難なジョナさま、しかしご自身で身に付けた方法でしっかりと姿勢を安定させ、ほぼ指先のみで作品を作り続けておられます。そして、現在は親元を離れ同じ障がいをかかえる弟さまとご兄弟で生活されています。大学や自宅等日常生活では介護職の方が支援をされています。

(作業療法士 那須)



春に行った高雄への遠足！
私(那須)も参加させて頂きました♪

大学での制作風景

大学ではジョナさまが取り組みやすいようにと先生方の協力で用意された作業機で制作や勉強に励んでいるそうです。



右横の絵は小学生から書いていた漫画に登場する僕の好きなキャラクターの一つです。作品を作る中で一番楽しいのは漫画の原案を生み出す工程です。

(ジョナさま)



作品：おイヌさま

ライブハウスでの絵の制作

市内の某老舗ライブハウスにて、お客さんの前で音楽に合わせて即興で絵を描く“ライブペインティング”に初挑戦！もう一人の絵描きの方との共同制作で右側の青い生き物の口から色んなものが飛び出ている独創的な絵をジョナさまが手掛けたとの事。



完成！



制作中・・・

車椅子の大きさもあり筆が届かなかったので急ぎよ太鼓を叩く棒を筆に繋げて描きました。

このイベントの主題は「生と死」です。僕の絵は“内にあるものを思う存分に吐き出す”というイメージで描いてみました。

(ジョナさま)

かなえる人生訓

「後でやろうはだめ！今出来ることはすぐやるの」

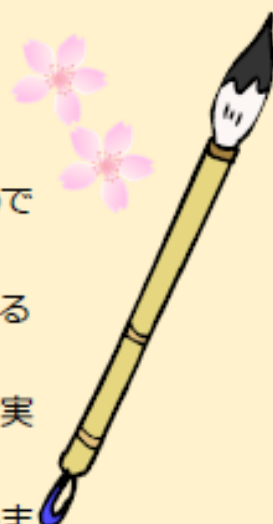
(90歳 Nさま)

Nさまはお一人で生活されているのですが、いつもきっちり部屋が整理整頓されているので秘訣をお尋ねしたところ、

「物にはそれぞれに住所をつくっておいて、そして使ったらすぐその場所に帰してあげるの。後でやろうは絶対だめよ。今出来ることはすぐやる、それが秘訣！」

と教えていただきました。Nさまは片付けに限らず、今日できることは明日に回さないを実践されています。

つつい後回しにしがちな私ですが、Nさまの言葉を思い出し、すぐやるよう心がけています。(看護師 高木)



リハビリ まめ知識

ヒートショックについて

かなえるリハビリ訪問看護
ステーション
理学療法士
水上 香



ヒートショックとは、室温の変化によって血圧が急激に上昇したり下降したり、脈拍が早くなったりする状態のことをいいます。ヒートショックが起こりやすいといわれる場所は浴室・トイレ・洗面所です。全国でヒートショックで亡くなる人は、実に交通事故死者数の3倍とも言われています。

温度差を最小限にして、心臓に負担がかからないように日頃から気を付けましょう。



冬の寒い脱衣所や寒い浴室
(血管が縮んで血圧が上がる)

なりやすい人



熱めの湯に浸かって温まる
(血管が広がり血圧が下がる)

対策

1. 65歳以上である
2. 高血圧や糖尿病・動脈硬化の方
3. 肥満気味の人や睡眠時無呼吸症候群のような呼吸に問題がある方
4. 不整脈がある方
5. 自宅の浴室には暖房設備がない
6. 熱いお風呂が大好き
7. お酒を飲んでからお風呂に入ることがある

1. 脱衣所・浴室を温める
(シャワーでお湯をはる、暖房器具を置く)
2. お湯の温度は41℃以下にする
3. かかり湯をする
4. 家に誰かがいる時間に入る
5. 寒い日は日没前にお風呂に入る
6. 食後、飲酒後は入浴を避ける

かなえる

TOPIC

認知症を持つ方とその家族に対する在宅での支援の在り方

9月27日（日）大阪市内にて教育研修部主催の認知症勉強会を開催しました。佛教大学保健医療技術学部作業療法学科准教授の苅山和生先生を講師にお招きし、「認知症を持つ方とその家族に対する在宅支援の在り方」をテーマに、約2時間に渡りご講義頂きました。当日は、当事業所社員、他事業所の看護師や療法士の方もご参加頂き、苅山先生のご講義にみな熱心に聞き入っていました。

今回のご講義は「認知症の原因」「認知症の人から見た世界とは」「家族の苦悩と光」「認知症カフェの取り組み」「京都式認知症ケアパスの取り組み」「在宅支援の認知症リハとは」と非常に多岐に渡った内容となっていました。

認知症を発症した方が実際にはどのような心理状態にあるのか、症例を通じて考えるセクションもあり、参加者はそれぞれ一生懸命に想像を働かせていました。苅山先生からは本講義を通じて、認知症を持つ方やそのご家族の不安を和らげ安心を探すこと、そして「本人が主体であり本人のこうありたい」という目的に沿った支援を行うことの重要性を教えてくださいました。また、「専門職である前に医療者として」「さらに医療者である前に人として」ご本人・ご家族と向き合うことが大切であるとも話されていました。このことを始め、私たち医療者が、日々のご利用者やご家族との関わりの中で、何に重きを置いて向き合っていけば良いかを考えるためのヒントが随所に散りばめられていました。

参加者それぞれが講義を受けて感じたことを、今後の訪問業務に活かし、ご本人・ご家族が安心を得られるような支援をしていかなければならないと思います。そして、認知症を持つ方とご家族が少しでも住みやすい社会を実現するために、私たち医療者が早期から関わり、地域の様々な職種の方と連携を取って支援を行っていけるよう会社としても取り組んでいこうと考えております。

教育研修部 佐々木広夫



苅山和生先生



編集後記

神社の紅葉や街路樹のイチョウも鮮やかに色づき、そろそろ冬の寒さを感じるこの頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか。先日ご利用者の方と屋外歩行中に公園でブランコに乗りました。なんとその方は90歳で、ご自身から「ブランコに乗りましょう、私好きなのよ。」と。私は恐る恐る見守っていたのですが、慣れた様子でシルバーカーから手を離し、すっとブランコに乗り、気持ち良さそうに風をきっておられました。まさかの出来事に驚いたとともに年齢って関係ないのだなあ、自分の思いこみはいけないと改めて思った出来事でした。益々寒くなるこれから、外に出る事も減りがちだとは思いますが、皆さまもお身体に気をつけて2015年の締めくくりをお過ごしください。

編集者 那須 香耶子